第１学年　学級活動（災害安全）　　　　　　　　　　　　　　　場所：１年２組教室

もしも地震が起こったら

指導者　　畠山　沙織

**１　目標**

　・校内での地震発生時の危険と適切な対処について理解し、安全な行動ができるようにする。

**２　新学習指導要領との関連【学級活動】内容（２）－ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成**

現在及び生涯にわたって心身の健康を維持することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

**３　単元について**

１・２学期の避難訓練では、ぐらっと来たとき、緊急地震速報が鳴ったときは、すぐに「おちてこない、たおれてこないばしょで だんごむし」の姿勢をとり、頭を守ることを徹底して指導してきた。また、朝学習の時間や学級活動の時間を利用して、登下校及び休み時間等、大人が傍にいない時の避難の仕方についても繰り返し指導し、震災の際に起こりうる被害や危険性についても話し合いを重ねてきた。さらに、避難訓練の際に世田谷消防署の方などから災害時の身の守り方についても指導をいただいている。

　しかし、上記の取り組みにより知識として地震が起きたらどのように行動すればいいのかということを漠然と理解しているものの、いざ訓練等で自分たちで行動するとなるとなかなか実践に結びつかないことが多い。1学期の避難訓練で休み時間に緊急地震速報が流れた際も、直前に身の守り方を確認していたにも関わらず、戸惑う児童が少なくなかった。

　そこで本単元において、より細かく校内のあらゆる場所での地震の際の危険性と回避の仕方を話し合い、考えることで、具体的に災害の場面を想起して自分自身で避難することができる力を身に付けさせたい。

**４　主題に迫るための手だて**

・1年生の児童が多く使用すると考えられる場所を取り上げることで、話し合いに具体性をもたせる。

・各場所の危険な様子を写真にて提示することで、児童が意識的に危険回避の方法を考えられるようにする。

・家庭との連携を図ることで、より日常的に危険を予測し、回避する方法を考えられるようにする。

**５　指導計画　（１時間）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ☆ねらい　○学習活動 | ◎安全教育の視点に立った留意点　■評価 |
| １  (本時) | ☆校内の様々な場所で地震に遭ったときの、危険を予測し、回避の方法を考える。  ○廊下・昇降口・階段で地震が発生したときの、危険予測及び、危険回避の方法を考え、話し合う。 | ◎休み時間に児童が多く利用すると考えられる場所を取り上げることで、話し合いに具体性をもたせる。  ◎危険予測をする際、「なぜ危険なのか」という理由を明確にして考えられるよう指導する。  ■「おちてこない、たおれてこない」の観点から危険を予測し、適切な避難行動を考えている。 |
| 課外 | ○避難訓練時（及び学期に２回実施される緊急地震速報の告知なし訓練時）に廊下・階段で緊急地震速報が鳴った際の適切な行動を身に付ける。 | ◎実施後、１時の学習内容を再度確認し、知識と行動の結び付けと定着を図る。 |
| 朝学習 | ○各自家庭学習で考えてきた、家庭の様々な場所で地震に遭ったときの、予測される危険と回避の方法を伝え合う。 | ◎「地震と安全」、「防災ノート」を活用する。 |

**６　本時の展開 （１／１）**

**（１）ねらい**

　　校内の様々な場所で地震に遭ったときの、身を守る方法を考える。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動　・予想される児童の反応 | ◎安全教育の視点に立った留意点  ■評価（評価方法） |
| ○緊急地震速報を聞き、安全に身を守るための行動をとる。  ・地震が来る合図だから、頭を守る。  ・教室にいるとき、「おちてこない、たおれてこない」  場所である机の下等を確認する。  ○東京にも大きな地震の来る可能性が高いことを知る。  ・家が崩れている。  ・教室の中もめちゃくちゃになっている。  ・こんな地震が来るなんて怖い。  じしんから　みをまもるほうほうを　かんがえよう。  ○廊下(階段)で地震が発生したときの、危険を予測する。  ・窓ガラスが割れて落ちてくるかもしれない。  ・足を踏み外して落ちてしまうかもしれない。  ・電気が落ちてくるかもしれない。  ○廊下(階段)で地震が発生したときの、危険回避の方法を実際に廊下へ出て確認する。  ・太い柱のそばなら、上から何かが落ちてくる心配がないから安全だ。  ・手すりにつかまると大きくゆれても身体を支えられるから安全だ。  ・近くの教室に入れば、机の下で身を守ることができる。  ○昇降口で地震が発生したときの、危険を予測する。  ・靴箱が倒れてくるかもしれない。  ・入口のガラスが割れて落ちてくるかもしれない。  ○昇降口で地震が発生したときの、危険回避の方法をペアで話し合う。  ・扉に近ければ、外へ出て校庭に避難した方がいい。  ・廊下側にいたら、太い柱を探して低い姿勢で頭を守る。  ○地震から身を守る方法を学級でまとめる。  ・どこにいても「おちてこない、たおれてこない」場所を探す。  ・頭を守る。 | ◎緊急地震速報を鳴らし、教室での身の守り方を確認する。  ◎熊本地震の写真を見せ、地震による被害の大きさと恐ろしさを身近なものとして捉えられるようにする。  ◎数十年の間に首都直下型地震の起こる可能性が高いことも押さえる。  ◎休み時間に児童が多く利用すると考えられる場所を取り上げることで、話し合いに具体性をもたせる。  ◎タブレットＰＣや実物投影機を用いて写真を提示することで、場所を思い浮かべやすいようにする。  ◎危険予測をする際、「なぜ危険なのか」という理由を明確にして考えられるよう指導する。  ◎ペアで話し合い、全体共有することを通して、考えが浮かばなかった児童にも学習の定着を図る。  ■「おちてこない、たおれてこない」の観点から危険を予測し、適切な避難行動を考えている。（発言・ワークシート）  ◎地震による被害を少なくするためには、どんな場所にいても「おちてこない、たおれてこない」ところを瞬時に見極め、頭を守ることが大切であることを押さえる。  ◎家庭で地震が起きた際には、どのように危険回避をしたらいいのかを考えてくるように伝える。 |